

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第1回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

3 開催日時

令和7年4月9日（水）午後6時30分から午後7時48分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：飯田委員、池亀委員、市川委員、上野委員、折橋委員、崎田委員、
瀧本委員、田中会長、原委員、本多委員、松澤副会長、山田委員、
山谷委員、吉田(実)委員、吉田(義)委員、渡部委員（欠席3名）

- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【田中会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【田中会長】

- ・会議録の確認：崎田委員に依頼

次第3 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・進捗状況、及び本日の作業内容について資料に基づき説明

今後、春日区地域協議会では、「子供たちに地域に愛着を持ってもらい、春日区に住み続ける、帰ってきたい地域」と「誰もが誰かとつながっている地域」を課題と捉え、今後の審議を進めてよろしいか、このことについて委員それぞれの意見を伺いたい。

【田中会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【吉田(実)委員】

個々の意見を聞きたいという話だが、今の説明は限定されているので、この地域協議会の委員になられた動機とか、この地域の問題意識としてこういうものを持っているとか、少し幅を広げて、これに限らず、各委員の考えていることを含めて話にしてもらったほうがよい。自分の問題意識も含めて話してもらってはどうか。発言後は内容を個々に書面で提出し、事務局から整理してもらってはどうか。

【渡邊係長】

その過程は既に済んでいて、ここまでの間抽出した意見を集約してきたが、置いてきた意見がある場合は付け足していただきたい。発言は会議録で確認できるので、各委員に改めて書面作成の負担をかけないということにさせていただきたい。

【吉田(義)委員】

具体的な解決策について協議しないのか。

【渡邊係長】

先に何について話し合うのかテーマを絞り、Step5で協議していただくので、具体的な話はこれからの作業になる。

【田中会長】

今日はこういう方向で進みたいがどうか、という意見をお聞きしたい。今は具体的に協議する前の段階である。

【渡邊係長】

まず問題を整理し、それに対する課題を抽出して、春日区で協議すべき課題が何かを皆さんで決めてから具体的な解決策の協議に入るというやり方を示している。まずは方向性を一つにしたい。委員が 19 名いるので、毎回皆さんが挙げるテーマが異なると、話がまとまらない。まずは方向性を決めていただきたい。

【田中会長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

質問が無いようなので、次に移る。

事務局の説明から見てきた「子供たちに地域に愛着を持ってもらい、春日区に住み続ける、帰ってきたい地域」と「誰もが誰かとつながっている地域」を課題と捉え、審議を進めていくこととしてよいか。このことについて、委員から一人ずつ意見を伺いたい。

まず私から発言する。子供たちや高齢者のことは、委員の共通の悩みで、避けて通れない課題。今の委員で知恵を出し合い、春日区の中で子供たちや高齢者が幸せになる方法を課題として挙げて、それに向かって進むことは、まちづくりとして大事だと思う。

【飯田委員】

若い時は会社中心の人付き合いが多かったが、一段落して地域の役員になり、地域の人と一緒に活動して初めて、町内会長、民生委員、いろいろな地域の方々が、退職後に地域のために活動していることが分かり、自分も春日区の一員であると実感した。いろいろな人と会う機会、イベント、地域の交わりをどのように作っていくか、それが一番大事だと思う。

【池亀委員】

皆で協議するのはいいが、具体的にこれをどのような形にまとめて、意見として一つのものを設定できるのか。それをいつまでと期限を決めて、この 4 年間で一つ提言するのか、それとも 2 年間で一つ提言するのか、ある程度目途をつけていかないと先に進まない。

高齢者と児童生徒とのつながりをどのように持ったらいいのか。子供と会っていると楽しい話がたくさんあるので、これから考えていかななくてはいけない。

【市川委員】

「地域に愛着をもって春日区に帰ってきてほしい」とあるが、春日区に帰ってきてほ

しいなら、魅力あるものを作らないといけない。今の春日区に若者にとって魅力ある施設なりモノがあるのか。施設や企業にしても、東京、大阪などの大都市から帰ってくる人に、就職先や住むところがない状態で、春日区に愛着を持って帰ってきてほしいと言っても、無理なのではないか。地域全体で盛り上げるにしても、春日区だけでできる問題ではないと思うので、行政とも協力し、魅力ある春日区を作るなら、もう少し真剣に考えないといけない。

【上野委員】

春日区の中には、町内会、子供会、小学校、中学校、青壮年会、老人会など様々なコミュニティがある。その中の人たちが考えていることは、多分バラバラだと思う。自分の世代で正しいと判断しているものが、実際に中学生、高校生に聞いたら、全く違うことを思っていることがあるかもしれない。例えば、お祭りをもっと開催したいと大人は思っているけど、中学生、高校生はそれを求めているというようなことがあると思う。できれば様々なコミュニティの人たちと話し合い、意見交換できればと思う。

町内会の代表でこの委員になっている方もいると思うので、意見を改めて聞いただけ場があるとありがたい。今、木田町内会でも「一人になっても誰かとつながりたい」という話があり、つながろうという活動をしている。中学生の意見を聞いたり、コミュニティについて話し合ったりする場を持ってはどうか。

【折橋委員】

「子供たちに地域に愛着を持って春日区に帰ってきてほしい」について、例えば、都会のマンション暮らしで、ただ食べて寝て、学校に通う生活の人は、多分そこに帰ろうとは思わない。ふるさとだと思わないので、そういう所には皆は帰っていかない。

私はある方に青年会に入れと言われた。理由を聞くと「子供にふるさとを作ってあげたくないのか」と言われ、それで入会した。そういう形で親同士がつながり、祭りの時に父親たちの楽しそうな姿を見て、戻ってきてくれると思っている。私の住んでいる地域は、お城も何も無いが、思い出があると思ってほしい。

【崎田委員】

市全体の話、町内会レベルのコミュニティの話、春日区レベルの話と大きくは3つに分かれてくる。春日区として全員が発言するとなると、春日山城跡、観光資源、ほぼその話になってくる。それでどんな話をしたらいいのかまだ分からないが、漠然とそんな風に思う。

【瀧本委員】

今は、解決すべき課題の優先順位についての確認をしているのか。

【渡邊係長】

補足する。「解決すべき課題の優先順位」である。「子供たちに地域に愛着を持って春日に戻ってきてほしい」ということと、「一人になっても誰かとつながってられるような地域」になるにはどうするかということの 2 つに絞った。そのままこれらを課題としてよいかという確認。文言は今回の意見を踏まえ整理する。具体的に深掘りするのは次回以降で、解決策の検討は更に先になる。今日は方向性についての確認だが、整理段階で置いてきてしまった意見があれば付け足してもよいとしている。

【原委員】

将来（不安、心配）の中で、高齢者世帯の除雪という項目がある。私も今年の 2 月の大雪の時に、1 日に 3、4 回除雪をしていた。もし自分が体調を崩したら、妻では絶対に無理なので、自分の家の敷地の雪でさえ、いったい誰が片付けるのか。ガレージの前の雪も片付けなければ車も出せない。車が出せなければ大雪の中歩いていくか。タクシーを毎回呼ぶわけにもいかず、生活が成り立たない。このことについて行政に全部ということではないが、何か皆で仕組みとかシステムを考えないと。そういう世帯は結構多いのではないかと思います。

【本多委員】

何もしないで家にいると、とても不健康。寿会での活動で少しでも体を動かすと、痛いところが無くなったりする。一人になっても誰かとつながっていた方がよい。町内会の行事でも、声を掛けてもらわなくても自分から参加することが大事。声が掛からないから参加しないというのでは、何も変わりようがない。各町内の民生委員などと協力しながら、健康で長生きできるように、町内のいろいろなコミュニティで活動できるようにすることを考えている。

【山田委員】

例えば、春日謙信交流館のように、それぞれの地域に、いつでも誰でも居られるような施設、場所があるとよい。高齢者や子供たちなど誰でも入れて、管理人がいて、9 時から 16 時ぐらいまで開放されていて、そこに行けば誰かがいるという、将来的にそういう場所の設置を希望する。

【山谷委員】

私の希望は、基本的には世界平和。子供たちが春日区に戻ってくることを限定すると難しいので、どうしたら上越市に帰って来たいかという声も聞いていきたい。

一人になっても誰かとつながっていたいというのは、一人暮らしの高齢者に対する除雪や、災害時に一緒に避難するなど、そういうことも含めたつながりをどうしていくか。広い意味でつながりを考えていくことが必要だ。

【吉田(実)委員】

一人暮らしの高齢者について、春日謙信交流館に集まるにも車の無い人は行けないので、町内会単位で町内会館に集まり、高齢者に寄り添えるサロン活動が望ましい。しかし、サロン活動を運営するリーダーが今はいない。私も新光町町内会の寿会を、今年から立て直したいと考えている。お手本になる「いきいき春日野」を見習い、町内ごとのサロン活動の運営について、地域協議会でも考えてはどうか。強みとして新光町町内会は青壮年会が活動の主体になっている。青年会のような組織がないところは、新たに作り運営してほしい。こういうのをベースにして、これからやりたいことをグループ分けして、テーマを絞り込んでどうか。

【吉田(義)委員】

各町内にあるコミュニティが有機的につながるような体制を作ることが大事なので、そういう環境を作りたい。コミュニティバスは大きい所ばかりではなく、駐車場が遠いなどの所にこそ走らせる。人を運んでそこへ集めるということもできる。日を決めて、児童、生徒が集まりスポーツをするなど、集まれる施設が必要。春日区の21町内会が合同で実施してもよい。謙信交流館は活動内容が限られているので、他に有効に使えるような施設がない。一人暮らしの問題もそこで解決できる。上越市を自慢できるものが発信できない。発信できるものが沢山あれば、市外に出ても上越市が住みよい場所であれば帰省する。例えば、石川県は全国的に学力レベルが高く、住みよい所だと話題になるが、上越市は何位ぐらいなのか。昔は上位にいたが、今は100位内にも入っていない。そういう対策を取っていない。

協議会でも、先手を打って具体的な話しができるような形の討議をしてほしい。いろいろなアイデアや意見が言えるような協議がしたい。

【渡部委員】

進め方については、これでよい。住みよい春日区とは何かということ。一人になっても暮らしていける春日区が理想。春日野町内会を褒めてくれる人はいるが、町内会館で

サロンを開催しても、なかなかうまくいかない。今年から老人会の会長になったので、このテーマに期待する。

【松澤副会長】

今、子供同士の交流がないという意見もあるが、子供会の行事でトラブルが発生した場合の責任問題や、他の区では大きなお祭りが中止になるなど、全体的にいろいろなコミュニティが存続の危機にあると考えられる。お祭りの中止などのニュースが上越市でもあるので、そういう意味で弱みの部分を皆さんで協議して解決していければと思う。

【瀧本委員】

2つの課題で進めてよいかということに対して、私見を述べているが、賛成か反対かを明確に回答している委員が少ないように思う。課題に対して具体的に深掘りするのは次回で、解決策は更に先になると判断した。

私は、この2つの課題で進めることに賛成する。

【田中会長】

様々な意見があったが、本日の意見を参考に、会長、副会長で改めて協議し、文言を整理するなどして次回示したい。

以上で次第3議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

- ・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：5月14日（水）午後6時30分から
上越市市民プラザ 第二会議室（予定）

【田中会長】

ただ今の説明について、意見を求める。

（発言無し）

意見が無いようなので、以上で次第4その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第4その他の「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【吉田(実)委員】

一年間、フリーディスカッションをしていて、目的は自主的審議のテーマを決めるた

めだが、時間がかかりすぎではないか。柿崎区は、もう既にテーマを決めて活動している。事務局と正副会長でスピードアップする検討してほしい。

【渡邊係長】

他の区は、前期からの持ち越しをそのまま自主的審議のテーマにしていることが多い。春日区はテーマを持ち越していないので、どちらかというと早い方。本来はまだ研修している予定だったが、既にテーマ決めに進んでいるので、他の区と比べると早い方になる。逆に研修を忘れずに実施していければと考えている。今期 4 年間は全て協議に費やせる期間なので、焦ることはない。

先ほどの意見にあった、この 4 年間での目処に関する質問についてお答えする。4 年間全部で協議してもよいが、例えば 2 年目の今年度中に課題が解決できるのであれば、来年からまた新しいことに取り組むことも可能。この 4 年間の使い方は、委員にお任せする。時間はあと実質 3 年間あるので、それを有効に使って進めたいと考える。

【吉田(実)委員】

他の地域協議会は、継続テーマにも取り組んでいる。重要なテーマは継続してやるべき。今の進め方は、新しいテーマを決めるときのやり方。例えば春日山観光、埋蔵文化財センターの隣に、ビジターセンターのようなものを 20 億円投資して建築する構想が上がっている。そんな無駄なことをやっていいのか。この協議会で議論してほしい。もう観光が進めている。第 4 期で春日山観光の提案をして、ある程度は取り入れられたが、私たちの意見とは違う余計な金を使うような方向に話が出ている。この活動にとって重要なものは継続して、過去のことをおさらいして、さらに進めていくのが本当のやり方。今のやり方は間違っている。新しいテーマで進めるならいいが、既存の重要なテーマについて、前期の内容を新たな委員は聞いていない。勉強会を行い、その上でテーマにするかを判断すべき。昨年度中に行うべきだったと私は思う。だから進め方について正副会長と事務局で議論していただきたい。

【田中会長】

第 5 期の 1 年目は、いろいろなことを勉強しようということで進めてきた。観光については、市の担当課で進めている。その内容が提示されたときに確認し、その時点で判断してもいいのではないかと個人的には思う。今の意見も考え、正副会長と事務局で協議する。

【吉田(実)委員】

1年間、正副会長と事務局の進め方を見た上で、遅いというのが一つと、重要なテーマとして、二期連続で協議してきた内容について、新しい委員は実際にどういうことを行ったのかを理解した方がよい。その上で自主的審議のテーマについて議論してもよいのではないか。

【松澤副会長】

私は前期も委員を経験したが、3つの分科会に分かれて結果を出して、よい実績だと思う。ただ前期は前期として、今回は19名の新しい春日区地域協議会なので、前回の実績を参考とするのは大事なことだが、今期は今期で新たな課題を委員の皆さんと協議して進めていきたい。会長副会長と事務局での協議が、今現在遅いのか早いのかも分からないが、これから皆さんと協議し、少しずついい方向に持っていきたい。前期のことは一回置いて、今期は今期でまた新しく皆さんと納得する進め方をしたい。

【吉田(実)委員】

研修については、春日山に登り現場を確認したが、もう少し研修の密度を高めて、委員の皆さんも吸収できると思うのでスピードアップをして、その中の一つに過去の審議内容をカリキュラムに入れて進めてはどうか。

【井守所長】

過去の自主的審議について、振り返りも大事だと思う。そこはまた機会を設けさせていただきたい。

例えば、観光の話が聞きたいのなら、魅力創造課から今の通年観光の全体の状況、春日山で具体的にどういうことをしていきたいのか、その考えを地域協議会で聞くことも可能である。観光については前期で一旦終わった話だが、このコミュニティの話とは別に改めて協議したいということが委員の話し合いで決まれば、新たな自主的審議のテーマに設定することはできる。委員の皆さんで協議して決めていきたいと考える。

【崎田委員】

春日山観光については終わったのか。

【井守所長】

一段落している。地域協議会が市に意見書を提出し、その意見書に対する答えがきている。意見書の内容がそのまま通年観光計画の春日山地区の計画に反映されているわけではないが、例えば看板の修理や愛宕谷公園の駐車場の活用、足元が危険な歩道を見直すなどの要望について、意図をくんだ回答が出ている。その後の進捗について聞きたい

と皆さんが希望すれば、担当課から話をさせていただくことは可能である。

【山谷委員】

過去の内容は、何か資料で見られるのか。

【渡邊係長】

ホームページに意見書及び回答書を掲載している。

また、昨年度の第1回地域協議会で、前期の活動報告会の内容をまとめた昨年3月発行の地域協議会だよりを資料として配布し、前期委員がどのような協議をしていたかの概要説明をさせていただいている。そのおさがりが必要ならば再度説明するが、協議を開始するまでにさらに時間を費やすことになることを含めご検討いただきたい。

【池亀委員】

2、3日前から、キジのケンケンという鳴き声が近所でよく聞こえる。私の家の隣に昔、竹林があり、そこで繁殖していたらしい。その後、竹を切ったら2年間全然キジが来なかったが、今年、つがいでもたやってきた。今、若者が定着しないという話があるが、キジはまた地域に戻ってきた。私の庭でも2羽と一緒に餌をついばんでいる。こういう自然というのもまだまだ悔りがたいと思い、皆さんに報告した。

【原委員】

3月16日の上越タイムスに、市議会の総務常任委員会で地域協議会の制度見直しについての記事が記載された。具体的にどんなことを協議しているのか、3月定例会もあったと思うので、事務局から議会の動き、この協議会をどういうふうにしていきたいのか、重要なポイントをかいつまんで説明していただきたい。

【井守所長】

前回の会議時に配布した資料は、現時点でまとめた内容を叩き台として示したものである。例えば、地域協議会については、委員の任期や委員の構成について、今は公募公選制だが、この場で話し合った結果が、なかなか実行に結びつかないという課題が常にあり、実行に結びつけるための解決策の一つとして、団体の代表の方からもこの場に加わっていただく案や、委員報酬の見直しなど、今はいろいろな案を出している状況。地域自治推進プロジェクトで、「地域自治区の区域」「地域協議会」「地域の団体」「財源支援の仕組み」「まちづくりセンター」の5つの柱を立てて、今はそれぞれ叩き台として案を示している。今年度それを成案にするために、改めて地域協議会委員に説明する機会を設ける。資料を熟読していただき、その時には意見をいただければと思う。

【原委員】

地域づくりやコミュニティの話であれば、住民組織の一番原点である町内会の町内会長が入っていない団体で協議してもあまり意味がないと、1年間協議会に参加して思った。もし団体推薦するのであれば、町内会長ないし副会長には絶対入ってもらい、プラスアルファで他の活動団体の長が入るという組織で協議した方が、もっと実がある話ができる。平成17年の合併時にいろいろなことがあり、地域協議会ができた経緯は分かるが、そうすると多分、春日区はこんな感じだが、安塚区、大島区、浦川原区はこんな雰囲気ではないと思う。もっと激しい議論をやっているはず。地域協議会もかなり年月も経っていて、曲がり角に来ていることは確か。どういうふうにこれを締めくくっていくのか、行政と議会でもしっかりと議論してもらいたい。

【吉田(実)委員】

こういう資料は全員に配布して、事務局からの説明が必要。地域協議会を理解する上でも重要な資料なので、内容が理解できれば意見もあると思う。私のように5期務めている人は不要だというような記載があるが、オブザーバー役としてある程度は貢献していると思うので、多選を否定してほしくない。この資料はディスカッションする材料だと思う。

【田中会長】

今の意見については、三役の事前打合せで協議し、まだ詳細に説明する段階ではないと判断したので、本日の会議では、説明はしないと決定した。また時機を見て説明しなければいけないと思う。

【渡部委員】

今日はテーマの方向性についての協議する場である。私も春日野町内会で活動していることがたくさんあるので、次回、皆さんで具体的な協議をして、例えば春日野町内会の場合は、春日野サロンを開いているが、こういう問題点があるなど、そういう具体論がないと何にも決まっていけない。そういう意味で私は賛成した。このやり方で進めるつもりだと思う。

最後に時間をとって、この間の議会の話についての説明を求めたりするのはよいが、こんなふうでは進まない感じがする。

【吉田(義)委員】

資料について、三役の事前打合せで協議したとのことだが、私たち委員よりも先に三

役は資料を読んでいるということか。こういうものは、事前に配ってほしい。元を正せば、私達のアンケートの回答を集約した資料なので、自分の回答結果を見ていないことになる。それが3月12日に確認できた。その後3月16日の新聞に記事が載った。私個人としては、話し合いの流れや問題点など学習させてもらっているが、コミュニティとして情報を共有化するような流れを、三役で作っていただき、もっと知見を広げるような方向付けをしていただきたい。

【田中会長】

他に何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。